

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 鳥獣対策推進費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 環境企画課 生物多様性係 電話番号：058-272-1111 (内 2701)

E-mail： c11265@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,227 千円 (前年度予算額：2,320 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|-------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 2,320 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,320 |
| 要求額 | 2,227 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,227 |
| 決定額 | 2,227 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,227 |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・死亡野鳥等の高病原性鳥インフルエンザの検査機関の確保等の体制整備。
- ・カモ科鳥類の生息数調査 (全都道府県で実施)。

(2) 事業内容

- ・野鳥における高病原性鳥インフルエンザ対策
野鳥糞便及び死亡野鳥等の高病原性鳥インフルエンザ検査を実施し、本病の発生動向を把握する。
- ・野生鳥獣生息調査
カモ科鳥類の生息数及び生息分布について生息調査を実施し、感染症発生動向把握の基礎とする。

(3) 県負担・補助率の考え方

野鳥における高病原性鳥インフルエンザ等動物由来感染症の発生動向の把握は家禽等への感染拡大防止のために必要な調査である。そのため、県負担が適当である。

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|-------|-------|---------------------|
| 旅 費 | 37 | 関係者との打合せ、生息調査にかかる旅費 |
| 需 用 費 | 415 | 消耗品購入費 |
| 役 務 費 | 5 | 郵便料金、電話料金 |
| 委 託 料 | 1,758 | 生息調査等委託費 |
| 使 用 料 | 12 | |
| 合計 | 2,227 | |

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

| |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 野生鳥獣の生息状況調査及び死亡野鳥等の検査を実施することにより感染症の発生動向を把握する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 | 指標の推移 | | 現在値 <small>（前々年度末時点）</small> | 目 標 | 達成率 |
|-----|-------|-------|------|---------------------------------|------|-----|
| | (H) | (H) | (H) | (H) | (H) | % |
| | (H) | (H) | (H) | (H) | (H) | % |

○指標を設定することができない場合の理由

施策を推進するための調査業務が主であり、目標の設定に適さない。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

（1）野鳥における高病原性鳥インフルエンザ発生動向調査
 糞便調査（年1回）、死亡野鳥等調査を実施した。

（2）野生鳥獣生息調査
 カモ科鳥類の生息調査を実施した。

（3）高病原性鳥インフルエンザの担当職員に対し研修を実施した。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 野鳥における高病原性鳥インフルエンザの発生動向を把握

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い | |
| (評価) ○ | 野生鳥獣の生息調査は全県・全国規模での調査の一環であり、野鳥における高病原性鳥インフルエンザの発生動向を把握することは、人や家禽の感染症予防対策に寄与する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない | |
| (評価) ○ | 調査結果が野生鳥獣の管理計画や感染症予防対策に反映されており、期待通りの成果が得られている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある | |
| (評価) ○ | 事業は他事業の基礎資料等として活用され、また、全国規模で情報共有されるなど適切に実施されている。 |

(今後の課題)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 高病原性鳥インフルエンザ等動物由来感染症の調査担当者へ、死亡野鳥等調査の実施方法や感染予防方法の研修が必要。 |
|--|

(次年度の方向性)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 高病原性鳥インフルエンザ担当者に対して研修を実施。 |
|--|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|------------------------|-------|
| 組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 | 【○○課】 |
| 組み合わせる理由や期待する効果 など | |